

2007民主党伊那谷新春交歓会 あいさつ 加藤 学

本日は連休の中日にもかかわらず、このように多くの方がお集まりいただき大変ありがとうございます。本会は私が第5区総支部の代表になって2回目の新春交歓会となります。上伊那のこの箕輪町で開催するのは民主党にとって初めてであります。

にもかかわらず、本日は、羽田雄一郎参議院議員、そして岡山からは元日本青年会議所会頭の高竹和明さんをはじめとして多くの来賓の方々のご出席をいただき、このように盛大に会を開催できることをたいへん嬉しく思います。

さて、今年2007年は、民主党小沢一郎代表が、政治生命のすべてをかけて戦うと申しているとおり政治決戦の年であります。7月には参議院選、その前哨戦として4月8日は県議選、22日にはここ箕輪でも町議選があります。候補者の方々にはこの後、ごあいさつしていただきますが、天下分け目の参議院選では、長野県区で羽田雄一郎さんが再選を果たすために力をあわすことはもちろんですが、全国に29ある一人区の勝敗が決め手となります。その1人区で15勝することができれば、参議院で与野党が逆転し、すでにロープ際まで追い詰められている安倍政権をノックアウトすることができます。

その重要な一人区の一つの岡山で参議院の比例に立候補しているのが今日お越しの高竹和明さんです。岡山では自民党参議院幹事長の片山虎之助氏に対して、民主党は女性県議会議員の姫井由美子氏を立てて挑みます。自民党の強い岡山でその支持基盤を切り崩すために出馬するのが、高竹さんです。日本青年会議所というのは麻生太郎さんなどが歴代の会頭を務める比較的自民党色の強い団体です。その日本青年会議所の元会頭が民主党の候補者として出馬することは、岡山で保守層の一部が崩れすさまじい戦いが始まっていることを物語っています。後は度、高竹さんには思いのだけを語っていただきます。

さて4月の県議選ですが、今回の県議選は今までとは明らかに違います。民主党は昨年の知事選で独自候補を出せなかった反省に立ち、県議選では20人を目標に公認・推薦候補をたてて、政権交代の基盤づくりを進めていきます。宮崎知事選では、知事のそのまんまマニフェストが話題になりましたが、民主党は県議選で信州マニフェストを掲げ、県議選をしがらみと地縁の選挙から政策選択の選挙に変えていきます。

飯田市では民主党公認で現職の小林利一氏、民主党推薦では小島康晴氏をたてて戦います。飯田では現在3議席中2議席を自民党がとっていますが、それを2人の当選で逆転すべく攻めの姿勢で戦いに挑みます。小島さんには後ほどごあいさつしていただきます。

県議選の2週間後にはこの箕輪町で町議選があります。先ほど挨拶をしました寺平シュウコウさんを上伊那支部長とする上伊那支部のみなさんの努力で、今回はここまで多くの方々のご出席をたまわることができました。それぞれの地区の事情もあるかと思いますが、しばりのきつい上伊那で民主党の支部長を受けて下さった芯の通った男です。若い政治家の芽をみなさまの暖かい真心で育てていただけますようよろしくお願いします。

さて、政治決戦に挑む2007年、敵の安倍政権の迷走ぶり、政治の劣化には目にあま

るものがあります。「いざなぎ景気を超えた」と経済の好調ぶりを大げさに訴えるだけで、足もとの庶民の生活をまったくかえりみません。年頭の施政方針演説でも格差問題にはあえて触れようとせず、「上げ潮」だの「底上げ」だの、マクロの視点で上からものをいうだけで、個々の生活者の実感に基づいた言葉を発することもできません。

残業代カット法案を引っ込めはしましたが、法人税を軽減し、メガバンクは税金も払っていないのに自民党への献金を復活させようとしています。派遣社員が増え、高齢者の医療費負担、障害者の負担、サラリーマンの税負担が増える一方で、大企業からは税金のかわりに献金をもらおうとする。すり寄る企業にまさにお金でこの国の政策を売っているのです。

また、教育の再生をうたって改正した教育基本法は、教育の目的を国民の自立から国家にとって都合のいい人材を作るという方針に変えたにすぎません。それを「タウンミーティングのやらせ」という卑劣なやり方で世論を扇動し強行採決したのです。やらせの責任として安倍首相は給与を100万円カットするだけで幕引きしました。日本の民主主義はそんなに安いのでしょうか。また、最近の教育再生会議で出してきたものは、いじめる子供とできない教師を学校から追い出すという方針です。都合の悪いもの、効率の悪いもの、弱いものを排除していくこうとする「淘汰」の考え方を、経済社会だけでなく教育の場でも拡げていこうというのです。教育は育てる場所ではないでしょうか。「切る」ことが教育ならそんなに簡単なことはありません。

国と地方の関係も同じです。平成の大合併はまさに合併補助金をエサに小規模自治体を「淘汰」していくことでした。地方交付税は年々カットされていく中で、干上がった順に吸収合併していくというやり方です。箕輪町は自立の道を選びました。英断であったと思います。おなじく自立の道を選択した隣の辰野町は、実質公債比率が24.2%と長野県ではワースト3となり財政難に苦しんでいます。ちなみに夕張市はちなみに28.6%です。小泉政権は辰野出身の飯島秘書官が影で動かしていたといわれますが、自民党は何をしてくれたのでしょうか。町の病院すら守ることができなかつたのです。ただ、ふるさとを見殺しにしてきただけではいでしょうか。

一方、切り捨てられる側の地方は必死です。安倍政権は道州制の本格的な検討に入ることから、下伊那では長野県をみきって、東海地方に入りたいということが盛んに議論されています。長野県があてにならないから、もっとお金持ちで力のある名古屋に助けてもらおうというさみしい発想です。下伊那を山口村にするつもりなんでしょうか。伊那谷を代表する代議士もそうした考えを後押ししています。自分の選挙区の一部を切り売りしてもいいという代議士がいるのも不思議ですが、いったい、道州制をすすめて地方の生活がよくなるのでしょうか。私はそう思いません。今の道州制の論議は個々の皿にのったおかずを大きな器に並びかえるだけのような議論にしか聞こえません。大皿になれば、遠くの人はおかずがとりにくくなるだけです。食いそびれる人も出てくるでしょう。お皿の大きさを論じるより、おかずの中味を議論しようではないか。道州制先にありきでなく、まずこの地域がどういう特色をもって生き延びていくかではないでしょうか。

民主党は、ふるさとを守ります。大切にします。政府案の道州制は賛成できません。かわりに地方への権限を委譲し、300くらいの基本自治体に分ける分権案を考えていきます。廃藩置県の逆の廃県置藩の発想です。そして、中央官僚支配の源泉、利益の温床となっている個別補助金を廃止します。これによって、官製談合、官官接待や、政治家・役所への陳情など補助金を獲得することにかかっているコストを大幅に削減できます。

あらゆるムダ遣いをなくしできた資金で、生活の役立つ改革をします。まず、農業です。ふるさとで農業をしても食べていけるように、米だけなく、小麦や大豆などの商品を作つて農家に直接支払い制度を導入します。これは、担い手経営安定化新法を施行し、大規模農家にだけ補助金を出して小規模農家を「淘汰」していく自民党的な政策とはあきらかに違います。やはり自分の田んぼで作った米は自分で食べたいじゃないですか。

また、年金の完全一元化をすすめます。基礎年金部分は税金で保障します。教育については、先進国で最低レベルの教育予算を大幅に拡大をし、お金がなくてもふるさとでしっかり勉強できる体制を整えます。これがまさに民主党が掲げる生活維新であり、日本のふるさとで生きる人をしっかりと支えていく政治であるのです。

この伊那谷に来て1年半ですが、2つのアルプスに挟まれた肥沃な土地を天竜川が鋭くえぐるこの伊那谷が好きです。休日には選挙区内の日帰り温泉にでかかるのが好きなのですが、きのうは阿南町のかじかの湯に行ってきました。箕輪にはながたの湯がありますよね。大変いいお湯でした。湯上りの牛乳で家族がくつろいでいる姿を見ているとあたたかい気持ちがこみ上げます。この時間を守っていきたい。大規模な公共工事は必要ありません。家族そろって湯あがりに牛乳瓶をあける時間を守っていくのが政治であると思っています。安倍首相がとなる憲法改正も戦後レジームからの船出が「美しい国」を作るとは思えません。私は日常の暖かい風景にこそ「美しさ」があると信じています。

「つつましいけど誇りをもって輝いている」 そうしたふるさとを子どもたちの世代に受けついでいくのが政治の使命であると思います。今年は大河ドラマ「風林火山」の年で、信州の戦国の歴史が注目されておりますが、私の出身高校である上田高校の校歌には、徳川の大軍勢をわずか2000の小勢で打ち破った真田氏の武勇をたたえる一節がもりこまれています。「関八州の精銳をここに挫きし英雄の、こころのあとは今もなお、松尾が丘の花と咲く・・ たふときみたま血にうけて、不斷の訓え川に酌む、われに至剛の誇りあり、いざ百難に試みん」

自民党的な力の前に、民主党は国会では微力です。しかし、今日ここに100名の方が集まってくれました。今の政治への怒りの声、新しい政治を求める力は確実に強まっています。敵は大群でも、「しがらみ」で集まつにすぎません。こちらには誇りがあります。理想があります。決して楽な道ではありませんが、個々の誇りをもって、百難に試みようではありませんか。2007年は動き始めました。政権交代にむけた政治決戦の序幕が4月に開きます。そして参議院選、きたるべき解散総選挙に向けて、ともに力を合わせて共通の敵に立ち向かってまいりましょう。